

グリーンフォーラム21 資源・循環技術委員会

サプライチェーンの環境マネジメント



吉田委員長のコメント
スコップ3は、スコップ1、2とは制度が違います。それを足し算するということは、全くあり得ない話です。GHGについても、環境問題全体から見るとほんの一部にすぎません。

ルールづくりに参画を

また、きょう参加されている企業の中には、WBCSDのメンバー企業、BCSDのメンバー企業、

72年、東京大学工学部卒、同年三菱電機入社。04年から環境推進本部部長。06年、同会社グリーンフューチャーズ設立。現在、ISO/TC207/SC1国内委員会委員長、日本代表委員。

日刊工業新聞社・グリーンフォーラム21は、2011年度第1回「資源・循環技術委員会」(吉田敬史委員長＝グリーンフューチャーズ社長)を開催した。同委員会は、グリーンフォーラム21活動の要となっている研究会との相乗効果を引き出し、活動全体の充実・強化を図る目的で06年度にキックオフ。「資源」とその「循環」を「技術」目線で、

新たなイノベーションの道を探求。第1回目は、みずほ情報総研の環境・資源エネルギー部環境経営チームチーフコンサルタントである柴田昌彦氏を講師に招き、総合テーマ「サプライチェーンの環境マネジメント」を取り上げた。排出温室効果ガス(GHG)の算定に関して、サプライチェーン全体で管理する仕組み「スコップ3」基準を組上にのせた。

創・省エネでスマート社会

しなやかな復元力(resilience)

グリーンフォーラム21

みずほ情報総研
環境・資源エネルギー部
環境経営チームチーフコンサルタント

柴田 昌彦氏

サプライチェーンGHGの排出定量化の意味と企業へのインパクト

～GHGプロトコル「Scope 3」基準を中心に～



東京大学大学院工学系研究科修士。株式会社富士総合研究所(現みずほ情報総研株式会社)入社後、一貫して企業の環境経営のコンサルティングを担当。チーフコンサルタント。栃木県出身。

メリットに見合った対応が基本

企業の温室効果ガス(GHG)の排出量の算定・報告のデファクト・スタンダードである「GHGプロトコル」シリーズに加わる新しい基準として、企業のサプライチェーンのGHG算定・報告基準「スコップ(Scope)3」が2011年9月に正式発行される運びだ。作成主体は、米国のシンクタンクである世界資源研

究所(WRI)と、スイスに本部を置く持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)。IBMをはじめ海外グローバル企業約40社が参加するパイロットテストも実施。日本企業の参加はゼロであった。

発行した「コーポレート基準」の補遺文書という位置づけだ。広範な15のカテゴリにまたがるスコップ3の排出量の全量を算定・報告することが要求事項となる。従来の日本企業の試みでは、バーシケない広範なカテゴリに設定がなされてお

り、過去の日本企業の貯金だけでは対応しきれないことで、自動的に100点中約10点を失ってしまう。ただし、正当性を示すことができれば、除外する

は、環境マネジメントの大きな潮流の第一波といえる。一次データ(固有のデータ)収集を義務づける要求事項はない。CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)の開示スコア/実績スコアの約10%がスコップ3関連から構成されている。スコップ3対応を行わないことで、自動的に100点中約10点を失ってしまう。ただし、正当性を示すことができれば、除外する

自社のスコップ対応でも顧客のスコップ対応への協力の場合でも、回避したいリスク、対応がもたらすメリットの大きさに見合った対応が基本となる。(要求事項を理解するための段取りとしての)最初の歩は簡易的な算定が求められる。その後の対応はスコップ3対応は、リスク・メリットに見合った対応が基本となる。このための必要性も吟味が必要。ただし、スコップ3対応の形で見られる。普通を取り組み、となっていくと考えられる。

め、あれだけ広く押さえているものはほかにみあたらない。委員長 日本で議論をしていると、どうしてもサプライヤーサイドの視点に立つことが多い。例えば、英国のカイボン・フットプリン

の規格が出たときに、サステナブル・コンプライアンス、要するに消費側からの発想がある。コンプライアンスで見ると、これは、環境というものを彼らは消している。発表者 スコップ3が注目された背景には、国別に何%減らすCOPの議論の破たんがあると思

委員 スコップ3の対応に対し、準備期間が何年くらい必要か。発表者 できる側に戻るのだから、例えば3年くらいは猶予があるのかもしれない。どういったサプライヤーと、どういう付き合い方をするか、あるいは経営上どれだけのリスクになり得るかというような、サプライチェーンの洗い出し的なことは5年くらいか、じわじわとやっていくべき

日本企業の優位性アピールの場に

委員長 基本的にスコップ3は、ダブルカウントが出てしまうので足さな

は、そもそも想定されていないと思う。足せば、地球全体の2億トをはるかに超

ある。発表者 絶対値の企業間評価も全く意味がないと考

えられる。意味があるとする。スコップ1、2ではGHG削減の余地が限られていて、「スコップ3まで広げよう」とする発想がかみ合わない。「GHG自体がリスク」との共通認識が普遍的なものとはな

ってはおらず、その一方で世界各国のGHG削減がテ

面からみて、新興国も含

委員 スコップ1、2でGHG削減の余地が限られていて、「スコップ3まで広げよう」とする発想がかみ合わない。「GHG自体がリスク」との共通認識が普遍的なものとはな

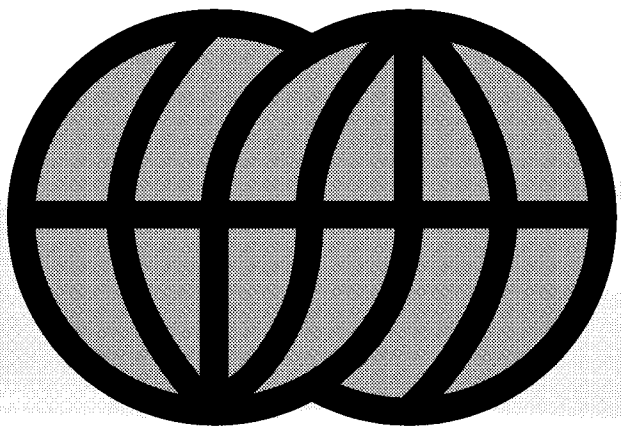
ってはおらず、その一方で世界各国のGHG削減がテ

面からみて、新興国も含

委員 スコップ3の対応に対し、準備期間が何年くらい必要か。発表者 できる側に戻るのだから、例えば3年くらいは猶予があるのかもしれない。どういったサプライヤーと、どういう付き合い方をするか、あるいは経営上どれだけのリスクになり得るかというような、サプライチェーンの洗い出し的なことは5年くらいか、じわじわとやっていくべき

創・省エネでスマート社会

しなやかな復元力(resilience)



GREEN FORUM 21

地球規模で年を追うごとに深刻化する温暖化の解決と豊かな生活をどう両立させるか。いま、全世界がこの問題に直面しています。一見、渾然一体とみまがうほどの両立のあり方が、理想のソリューションといえるかもしれません。

グリーンフォーラム21は91年、「企業は「環境保全」と「経済成長」の両立を可能にするための道を最重要課題として喫緊に具体化する必要がある」との問題意識から設立されました。今後、スマートな低炭素社会へと着実に変容していくため、次世代エネルギーなど優先活用すべき革新的技術の開発をはじめとする環境力、さらに生活まわりや産業のあり方を変革する、しなやかな復元力(resilience)も同時に求められています。今年もグリーンフォーラム21は、先導役を力いっぱい果たしていきます。

詩 それは 海からこぼれて 空になるように
空からこぼれて 海になるように
そのように書かなければいけないものなのです

【書く】石原 吉郎

グリーンフォーラム21の活動に参加しています。

旭化成、岩谷産業、NEC、NTT、大阪ガス、関西電力、キャノン、住友化学、Jパワー、東京ガス、東芝、トヨタ自動車、日本環境認証機構、日本政策投資銀行、日本製紙グループ本社、パナソニック、日立製作所、ブリヂストン、ホンダ、三井物産、三菱化学、三菱電機